

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

ウラナミシジミ

(シジミチョウ科)

波打つような淡い褐色と白のしま模様の蝶。翅の長さが1.7cm程で、小さい割に眼が縦長に大きく、愛らしく見える。表側は青紫色。翅の後端には黒い斑点が2つあり、その間に尾状突起が突き出ている。これらが頭部に似た姿なので天敵が間違っって食べ、助かることがあると言われる。

関東以西の南部沿岸の温暖な地域で1年中生息するが、移動性の高い蝶で、東日本では夏から秋に草原、河川などで見られる。日中、低い場所を活発に飛び、よく草花で吸蜜している。幼虫はエンドウ、クズ、ハギ類などマメ科の植物を幅広く食べる。このような身近にもある植物で育ち、秋には高尾付近を含め多くの場所で可愛らしい姿を見せてくれる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.55

スギ (ヒノキ科)

今回は、日本各地にある「ブランド杉」を紹介いたします。私なりに調べましたが、資料が乏しいため多少疑わしい部分もあります。

南から九州の「屋久杉」、「飫肥スギ」を紹介いたします。

「屋久杉」

鹿児島県の屋久島の天然木で樹齢千年以上の杉を屋久杉といいます。

成長が遅い為、年輪幅は狭く木目が詰っており、樹脂分が多くて腐りにくいという特徴も持っています。船材・建築材など様々な形で使用されたますが、古くは「平木（へぎ）」と呼ばれる屋根材に加工され、薩摩藩時代は年貢として納めていました。現在は、虎杓などの杓目や色が美しいため壺などの工芸品に利用されています。

「飫肥スギ」

宮崎県の日南地方（飫肥藩）で江戸時代の初期から植林が始まった人工林です。成長が早く軽量で弾

力があり、強度が高く、樹脂を多く含んでいるため湿気に強く、腐りにくいため、造船用（弁甲）材として盛んに利用されていました。

現在は、木造船の生産がないことから、建築材として使われるようになりましたが、使用条件の厳しい船に使われていたように、建築材としても優れた性能を発揮しています。（皿）



細かい年輪を持つ屋久杉の横断面

体験林業 東京環境工科専門学校

8月6日（木）、当センター庁舎と大平国有林において、東京環境工科専門学校の3年生（4名）と先生（1名）の計5名が参加し、体験林業を行いました。

先生によると新型コロナの影響を受け、いつも利用していた実習地が使えないと言う経緯があり、新しい実習場を求めて当センターを初利用したとのこと。

今回初利用ということもあり、林業のフルコースを体験してもらうこととなりました。

午前中は当センターの職員による森林の働き、センターの役割、林業の現状についてスライドを利用した説明を、とても熱心に受講されていました。

講義後は、大平国有林に移動し下草刈用鎌の手入れ、下草刈り、間伐、植生観察、人工林の管理方法について体験しながら学んでもらいました。

とても暑い中での体験でしたが、学生の皆さんは汗だくになりながら、最後まで無事にカリキュラムをやりとげました。

学生の皆さんは、1年生の時に学校で体験林業をしたことがある様で、「過去の体験記憶を鮮明にすることができた」との感想をいただきました。

先生からも「是非来年の3年生にもお願いします」とお声をいただきました。

皆さんの感想を受け、新型コロナ対策を取りながらも、実施して良かったと感じたところです。来年度もご利用をお待ちしています。（岩）



過去の実習を思い出しつつ間伐作業を体験



下草前に鎌を研ぎます



森林、林業についての講義



現地を歩きながら人工林の管理方法等について説明

編集後記

新型コロナ対策のため森林教室の実施を見合わせていた小学校から、少しずつですが予約が入ってきました。

コマツナギの花



Forest通信 NO.379

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

